

GIGAスクール構想による一人一台端末の導入に伴い、さらに教育環境のICT化を進め、より分かりやすい授業やICT活用能力を育てる授業や確かな学力の育成を図ります。

GIGAスクール構想

児童生徒用タブレットを用いた学習の展開



一斉学習



個別学習



協働学習

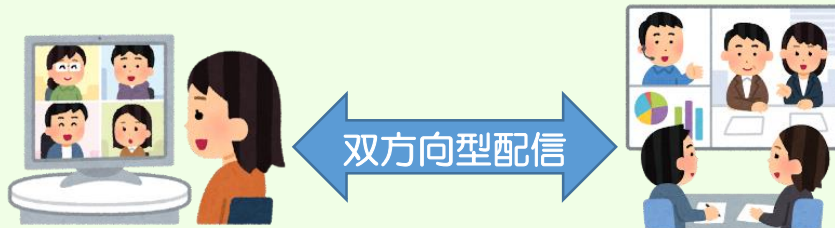
子どもたちのICT環境整備として、児童生徒向けの一人一台端末となる学習者用タブレット端末等を整備し、ディベート等、授業での効果的な活用を行い、教育の情報化を円滑に推進する。

一人一人が自分のペースで作る学びの実現

「考える力」を育む教育の実現

教職員のためのオンライン研修の実施

一人一人の指導力・技術力の向上の実現



双方向型配信

教員の資質・能力の向上を図るため、指導者用タブレット端末を活用した、効果的な指導法について、研究・実践の研鑽を積む。

指導用タブレットを使ったライブ授業のライブ配信

一人一人が安心して学べる環境の実現



一方向型配信

新型コロナウイルス感染への不安から自宅での学習を選択している家庭や長期にわたる不登校や療養中の児童生徒にも、授業ライブ配信を実施し、子どもたちの学びの保障を行う。

ICT活用に向けた具体的方策

適切な情報活用能力の育成

急速に発展するICT技術に対応する能力や、情報や情報手段を主体的に選択し活用していくために必要な能力を、**体系的に育む**体制を目指します。

身近な道具としてのICT機器

学習活動において、鉛筆やノート、定規等の文房具と同様に、ICT機器を身近なツールとすることで、子どもたちがその有用性を実感し、**目的に合わせて自ら選択するとともに、抵抗感なく利用できるようになる**ことを目指します。

学びの質を高めるためのICT活用

ディベート教育等、「主体的・対話的で深い学び」の視点による授業改善のサイクルにおいて、目標の達成に向けたより効果的な手段として、常にICTの活用を選択肢に含め、適切に活用するとともに、その成果を検証するなどして、**授業や家庭での学習に、より子ども一人一人の学びを保障し、その質を高めること**を目指します。

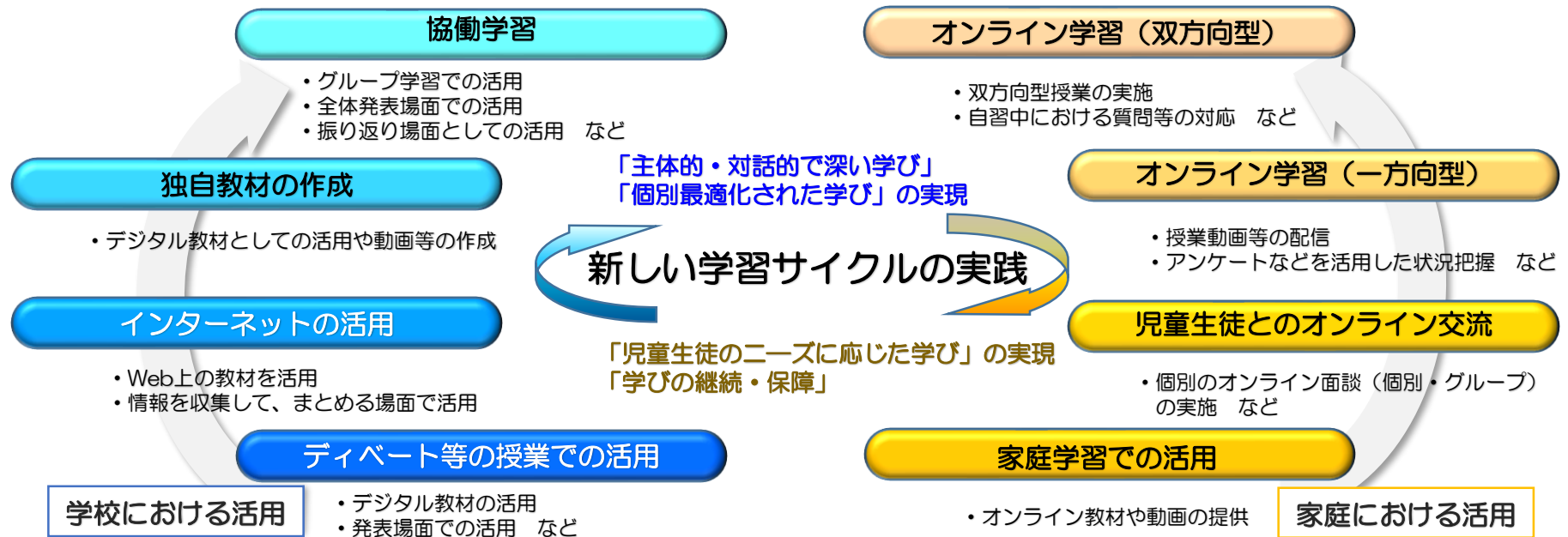
個別最適化された教育の実践

多様な特性を持った全ての子どもが、誰一人取り残されることなく、確かな学力を確実に身に付けることができるよう、ICTを効果的に活用し、授業内容の充実を図ることや、一人一人の学習等に関する細かな記録やデータを継続的に収集、蓄積、分析することで、子ども自らが振り返りに活用するなど、**個別最適化された学び**を行うことができる環境を目指します。

子どもの障がい等の状態や特性に応じたICT活用

支援を必要とする子どもが、その状態や特性、発達の段階等に応じてICTを適切に活用し、**学習上または生活上の困難を改善**できる環境を目指します。

学校教育 | ICT活用授業指針の具体的方策

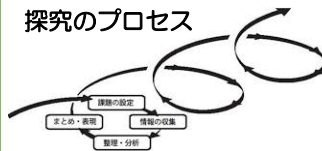


STEP 3

1人1台を活用して、教科の学びをつなぐ。社会課題の解決に生かす。

探究のプロセスにおける様々な場面において、ICTを効果的に活用することができる

探究のプロセス



課題の設定

実社会で起こる問題や課題、進路や教科等、横断的な課題などを設定

情報の収集

文献検索、ネット検索、インタビュー、アンケート、実験、フィールドワーク等

整理・分析

統計による分析、思考ツール等で分析

まとめ・表現

論文作成、プレゼンテーション、ポスターセッション、提言等で発信

STEP 2

1人1台を活用して、教科の学びを深める。教科の学びの本質に迫る

国語

書く過程を記録し、より良い文章作成に役立てる。

算数・数学

関数や図形などの変化の様子を可視化して、試行錯誤する。

社会

国内外のデータを加工して可視化したり、地図情報に統合したりして深く分析する。

理科

観察、実験を行い、写真や動画等を使ってより深く分析・考察する。

外国語

外国人との「本物のコミュニケーション」により、発信力を高める。

「すぐにでも」「どの教科でも」「誰でも」使えるICT



検索サイトを活用した調べ学習



文書作成やプレゼンテーションソフトの利用



一斉学習の場面での活用



一人一人の学習状況に応じた個別学習

学習過程をふまえた効果的なICTの活用

一人一人が自分のペースで作る学びの実現



「考える力」を育む教育



(個別最適化された活動場面)

■個に応じた学習からグループ学習の活性化



自らの疑問について深く調べ、個々のレベルに応じた学びが可能

■グループの学習から学校の壁を越えた学習の活性化



教室内の授業や学校間の交流授業など、互いを高め合う学びが可能

一人一台環境における問題発見・解決のプロセス

児童生徒

教員

把握

問題発見・気づき

- インターネットやデジタル教材を用いた情報収集、写真や動画等の詳細な観察情報の収集記録から、**新たな気づき**を得る。
- 習熟の程度や誤答傾向に応じたデジタル教材を用いることにより、**自分に合った学習課題をつかむ**。

- 学習用端末等に、写真や音声、動画などの教材を提示し、**学習課題に気づきやすく**する。

追及

見通しを持ち考える (自らの考えを持つ)

- 写真や動画等からの情報を繰り返し確認することで、学習課題を解決するために**必要な見通しを持つ**。
- 目的に合わせて収集・整理した情報を、学習支援ソフトを用いて**自分なりに考える**。
- ファイルの共有などから、学習内容を記録したり、自己評価を行ったりする。

- 活動の様子を記録・再生して自己評価に基づく練習ができる場の設定により、**技能の習得や向上**を図る。
- 解決に必要な情報を学習用端末等で提示し、**分かりやすく伝える**。

解決

見通しを持ち考える (他者と協働し学びを深める)

- 作成した資料を書き直したり、色を変えたり、下線を引いたり、保存したりする機能等を活用しながら、**試行錯誤や学びのふりかえり**を行う。
- 学習支援ソフトを活用し、自分の考えを聞き手に**分かりやすく説明**する。(ディベートでの効果的な活用)

- 学習成果の確認や、**多角的な評価・指導改善**のための資料とする。
- 学習支援ソフトを用いて、児童生徒の考えを把握し、**情報共有**や**協働的な学習**を促す。

ふりかえり

学習のまとめ 次への探求

- 学習用端末等を用いて、グループや全体に分かりやすく提示して、発表・話し合いを行い、**学習内容をまとめる**。

- 学習記録やデジタル教科書等を提示して学習内容の**まとめ**を行う。

学習確認・テスト

- 学習活動を通して収集した情報(写真・音声・動画等)を用いて資料・作品を整理し、ファイルの共有や教材を保存して学習の**ふりかえり**を行う。
- オンライン学習を活用し、各自の習熟度や状況に応じて**知識・技能を身に付ける学習を効率的**に行う。

- 学習活動を通して、収集した一人一台の資料・作品等を分析し、**評価**や**指導支援**に活用する。